

第2回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会 議事要旨

【少子化問題と子育て支援の方法について】

少子化問題は、国の労働力や年金制度といった経済的な側面からのアプローチだけでは解決できない。一方で、本計画が国による政策である以上、それを自分たちがいかに有効活用し、豊かな子育て環境を作っていくかという問題意識を持って進めることが必要なのではないか。とりわけ、地域の視点からこの計画を検討していく重要性は高い。

子育てグループのボランティアやNPOの人材育成に対する金銭的な支援も重要ではないか。子どもたち自身もこの計画により主体的に関わっていけるのでは。子どもたちの立場から、自らの居場所や環境がどうなっていくべきかという意見を聞けないだろうか。

【子育て支援に対する具体的な要望・意見】

屋内での遊戯室のような場所が少ないので、増やしてはどうか。

子育てグループの中に相談役となるリーダーのような人がいれば、新たにグループへ参加したいと希望する親も行きやすくなるのではないか。

有資格者やリーダーは、子育て支援にボランティアとして関わる者にとってもしばしば心強い存在となりうる。有資格者が常に正しい答えを持っているというわけではないが、親から質問を受けて答えた内容が妥当であったか否か不安を抱くボランティアにとっては、それらの指示やアドバイスを受けられる人物が必要である。特に小児保健など、医療に関わる部分では専門家の存在が不可欠。現在、保健師など医療サポートが可能なそうした人材とのラインが十分とはいえない。

文化センター内の図書室における本選びは、子育ての仲間づくりにとっての大事な活動であるため、もっと自由に会話できる雰囲気してほしい。

府中市の歴史や風習などを次世代に伝えていくという地域の活動も重要な子育て支援となる。様々な専門知識や能力を持った退職者と小学生との世代間交流はその一例。

【地域社会におけるボランティアの活性化】

ボランティア育成の重要性。ボランティア精神だけでは限界があり、ある程度の段階までいくと、関わっている内容に関する学問的な専門知識がどうしても必要になってくる。

サービスを受けるだけでなく提供する側にもまわるボランティアを増やし、相互関係のある共生社会を作る必要がある。ただ、ボランティア感情というのは、受けたサービスに感謝するとか、人間関係を結ぶ絆に取り込まれて出てくるものであるため、結局のところは基本的な個々人の関係性が鍵となってくる。

地域の施設で行われている生涯学習活動とボランティアをつなぐ試みはできないか。例えば、本読みの講座を受けた人が、その後子育て支援の活動でそれを活かすことができるのではないか。ただし、行政がそれを促すとなると、プライバシーの問題等があるため、民間主導でそういったつなぎ目のある活動ができるとよい。

【その他】

人間関係を取り結ぶことが困難な子どもが多くいる。家庭ではひとりっこが増えてきているし、社会との関係も深くつながっていないという状況が背景にあるようだ。子育て支援のあり方も、そうした状況を踏まえて、子どもたちが育っていく場の創造として考えていかなければならない。

家庭における虐待の問題も深刻。しかし、それに行政や地域がいかに関わっていくべきかという点は非常に複雑で難しい。